

紅錦香(くにか)

登録番号：第2459号

登録年月日：平成2年11月20日

登録者：野池今朝喜(長野県長野市
川中島今井424番地)

育成者：野池今朝喜

来歴：「野池白桃」(育成者選抜
の中生種)の枝変わり

育成地：長野県長野市川中島

特性

■栽培特性

樹姿は中間で、樹の大きさは「白鳳」程度の中位で、樹勢は中庸である。若木時は直立するが、樹齢が経るにしたがい開張してくる。枝梢の長さおよび節間長は中程度で、複芽が多く、花芽や葉芽の着生はよく、枝梢の発生や結実は安定している。開花期は「白鳳」同様で中位、花は普通咲きで大きく、花粉はあるが極少で、受粉樹が必要である。葉身の形および大きさは「川中島白桃」と同様である。生理的落果や核割れは少く、果皮の裂果や肌荒れは微である。成熟期は「野池白桃」(「愛知白桃」と同時期)より10日程度遅れ、満開からの成熟日数が125～130日の範囲にあり、育成地では8月下旬から9月上旬に収穫となる。「川中島白桃」より1～2日程度遅れる。

■果実特性

果実は扁平形で、果頂部の凹みは中で、こうあ部の凹みは深い。果実の大きさは平均で330g程度となり、極めて大きい。果皮の地色は白であり、着色は濃く、ほかし状に容易に着色する。果面の毛茸の密度は中位で、毛茸の長さは「川中島白桃」に比べ短い。果肉色は白色で、果肉内や核周囲の色素の入り方は少ない。果肉は密で、繊維は少ない。肉質は溶質で、果汁も多い。果実の糖度は13～14%と高く、酸味は少なく、食味は優れる。果実の日持ちは「川中島白桃」と同程度で比較的良好である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病害虫に対しては他の品種と比較し、特に大きな差異はなく、主要な病害虫については十分な防除対策が必要である。花粉が少なく稔性も低いため自家結実は難しく、花粉の多い品種を受粉樹として導入するか、人工受粉を実施して結実の確保を図る必要がある。果皮の裂果や肌荒れ(微裂果)は少なく無袋栽培は可能であるが、上向き果など直射日光を強く浴びるような状況下では障害が見られるので、下向き果を中心に着果させる。また、土壤水分の激変や樹勢の低下は裂果発生を助長するので、土壤水分管理や樹勢の維持に努める。着色は良好で容易な品種であるが、早採りは肉質や食味が劣るので、熟度、地色や果肉硬度等も加味しながら適期収穫を徹底する。

■地域適応性

果実品質や日持ち性が優れるため市場の評価も高い。県内では大果で豊産性の栽培しやすいモモ晩生種として栽培の取り組みが見られている。モモ栽培が現在行われている地域での適応性は十分にあると考えられる。

(山西久夫)